

女性現実研究所 資料『女性現実物語』

性科学・性医学・性関連技術調査研究報告コホート (ゾーン)

マイ女性器ナンバー (女性器背番号制) と  
女性器データベース、女性器照合技術の可能性

まるで物語のような女性の現実に合わせて

初版：2004年4月17日

最終更新：2019年9月22日

～ 著者 ～

◆女性現実研究所 代表スタッフ (代表ウォッチャー、男女)

～ 編者 (女性からのご相談、ご投稿、情報提供の受付および本著の編集) ～

◆女性現実研究所 幹部女性スタッフ (幹部女性ウォッチャー) 一同

～ ご協力者 (代表および幹部女性スタッフ一同より厚く御礼申し上げます) ～

◆女性現実研究所 一般女性スタッフ (一般女性ウォッチャー) の皆様

(社会人女性スタッフ、主婦スタッフ、女子大学生スタッフ、女子高校生スタッフ)

◆女性現実研究所にご相談、ご投稿、情報提供して下さった全ての女性の皆様

(本著では、女性ご本人から公表のご希望やご許可を頂いた事例のみを取り上げておりますが、全ての女性にメール返信や面談などの個別対応を行っております。)

## 目次

1. 私たちの着想 — マイ・カラダ・プロジェクトへの道 —
  - 1) ユートピア集団に見られる女性器や肛門の原始共産主義的公有思想 — 女性の体は誰のものか —
  - 2) 女性器の公有思想を修正した逆転の思想
2. マイ・カラダ・プロジェクト  
(シェアハウス入居女性および性被害調査委託女性への試験的導入)
  - 1) マイ・カラダ・プロジェクトのしくみ  
マイ・カラダ・ナンバー (カラダ番号制)、カラダデータベース、カラダ照合技術
  - 2) 被害女性のホクロや顔、指紋が写っている場合
    - ア) ホクロの位置 (被害女性特定方法の基本)
    - イ) マイ顔ナンバー (顔番号制)、顔データベース、顔照合技術
    - ウ) マイ指紋ナンバー (指紋番号制)、指紋データベース、指紋照合技術
  - 3) 被害女性の性器が無修正で、性器から検証可能な場合
    - ア) マイ女性器ナンバー (女性器背番号制)、女性器データベース、女性器照合技術
    - イ) 日本独自の問題点
      - 性器の修正による性被害の発見の遅れと被害女性の泣き寝入り —
  - 4) 被害女性の性器が修正されており、性器からの検証が不可能な場合
    - ア) マイ肛門ナンバー (肛門背番号制)、肛門データベース、肛門照合技術
    - イ) マイ乳頭・乳輪・乳房ナンバー (乳頭・乳輪・乳房背番号制) と乳頭・乳輪・乳房照合技術
    - ウ) その他のマイ・カラダ・ナンバー  
(マイ・太もも・ナンバー、マイ・ハソ・ナンバー、マイ・ヒップ・ナンバー等)
3. 使用技術 — 開発と導入 —
  - 1) 性被害女性 (主に女現研シェアハウスの入居女性) の検出技術 (アダルトサイトや女性器統計データなどの活用)
  - 2) 性被害女性 (主に女現研シェアハウスの入居女性) の検出技術 (独自の検出技術)
  - 3) 児童ポルノ検出技術 1 (PhotoDNA の導入)
  - 4) 児童ポルノ検出技術 2 (独自の検出技術)
4. 今後の課題

## 1. 私たちの着想

### 1) ユートピア集団に見られる女性器や肛門の原始共産主義的公有思想

#### — 女性の体は誰のものか —

「女の体は誰のものですか？」

こう問われたとき、あなたならどう答えるだろうか。おそらくほとんどの人、とりわけ女性は、第一に「確かに」自分のものであり、第二に「喜んで」あるいは「しぶしぶ」(たった一人の)自分の夫やパートナーのものだと答えるだろう。特に二番目については、アフリカや昭和までの日本ではそれが当然の道徳とされてきたし、不倫相手や同性愛パートナーのものであるという答えを積極的に持つ女性がいても、今も最初から職場や社会で公表する女性は少ないだろう。

有史以来、女体の私有を高らかに謳い、パートナーの数を自慢するのは、男性ばかりであったし、アフリカや日本に限らず欧米でもそうであった。

ところが、このような思想に根本から疑問を持つ宗教団体やユートピア集団も、日本と世界には存在する。別途紹介したヤマギシ会や一燈園、ラエリアン・ムーブメントなどがそれだ。とりわけ原始共産主義を掲げる団体の場合には、私有財産を否定しているのだから、女性の体が生涯にわたり(大自然や人類全体のものではなく、夫やパートナーという)誰か一人の所有物になってしまって本当によいのだろうかという思想が、当然出てくる。彼らには、人の命を生み出す女性器や子宮を「結婚」という名の下に一人の男性(夫やパートナー)が私有・所有する社会常識のほうが、女性に対する暴力や冒瀆に見えているのである。

しかし、これらの団体は、女性器がその女性自身の私有物・所有物であるということまで、全面的に否定するのである。

### 2) 女性器の公有思想を修正した逆転の思想

私たち女現研は、これら女性器の、そして女体全体の公有思想を共同体内に敷いている教団やユートピア集団にお邪魔し、観察・研究してきた結果、このような女体公有思想を(性被害女性たちの安心できる生活共同体を作るために)批判的にとらえ、逆手に取り、修正を加え、私たちの共同体に適用できないかと考えた。

つまり、一つ目には、性被害女性の悲しみ苦しみの多くは、「自らの(私物、所有物、私有財産であるはずの)体がもはや永遠に加害者だけのもの、汚れたものになってしまった」という絶望から来ているため、宗教の形態を取らずして、「シェアハウス内の女性器共有思想」を持ってないかと考えた。これは、「ある一人の入居女性の性被害は、入居女性皆の性被害である」、また、「ある一人の入居女性のオーガズムは、自分だけの利益ではなく、入居

女性皆の性の喜びである」とし、女性器の安全を社会的法益にも似たものと見る心的状態である。この考え方は、多くの性被害を個人的法益に対する罪とし、被害者なき犯罪を社会的法益に対する罪とする法学的解釈とは異なるが、共産主義的な女性器公有思想とも異なるはずである。

また、二つ目には、「女性器は私物であるから、恥ずかしい」という考え方（これはつまり、「私物であったからこそ、一度でも強姦された女性器（女性）は汚らわしく、無責任であり、性被害は自己責任に帰すべきである」といった、派生しやすい差別思想をも含む）を超えて、「女性器は入居女性たちの共同の宝である」とする一つ目の考え方に基づき、入居女性たちや性被害調査を委託して下さった一般女性たちの新たな性被害映像・写真やリベンジポルノを素早く発見する体制を構築できないかと考えた。つまり、少なくとも私たち仲間内では、自分たち（入居女性や他の被害女性たち）の性器（や肛門・乳頭・乳輪・乳房など）を女性どうして撮影し合い、ナンバーを付けて女性器情報共有データベースを構築し、これを利用した女性器照合技術を女現研・シェアハウス内で導入しようと考えたのである。

一つ目の共有（実生活上の共有）と二つ目の共有（情報の共有）とは、意味も内容も異なるが、少なくとも、これらは両方とも共産主義的な女性器の公有とは異なるのであり、私たちの共益的な女性器共有世界ができると考えたのである。

## 2. マイ・カラダ・プロジェクト

(シェアハウス入居女性および性被害調査委託女性への試験的導入)

### 1) マイ・カラダ・プロジェクトのしくみ

マイ・カラダ・ナンバー（カラダ番号制）、カラダデータベース、カラダ照合技術

こうして、これまで女現研では、私たちのシェアハウスの入居女性をはじめ、多くの被写体女性（社会人女性、女子大学生、女子高校生、女子中学生）の写真・映像のデータベースを作成し、実際に性被害やリベンジポルノを発見し、ご本人に手渡すことや返却することに成功している。

以下、私たちのプロジェクトの概要を解説する。

まず、私たちの性被害映像・写真等は、別途解説した媒体等の保管センターに収められている。多くの場合、裸体映像・写真が決め手となるが、場合によっては、性被害時の着用衣類も決め手となるため、衣類の保管センターも大いに活用している。

シェアハウスの入居女性と、性被害調査をご依頼下さった一般女性には、「マイ女性器ナンバー」や「マイ肛門ナンバー」をはじめとする「マイ・カラダ・ナンバー」（女性の体に付ける一意的な番号）を発行しており、このシステムを「カラダ（背）番号制」と名づけ

ている。基本的に、一人の女性につき一つしかない部位は、ナンバーが全てマイ・カラダ・ナンバーそのものに一致するが、乳頭など、一人につき複数箇所あるパーツには、その数だけのナンバーが、マイ・カラダ・ナンバーの後に付けられている。

背中とは限らないのに背番号制とは、本来は誤用であるが、これはもちろん、国税庁のマイナンバーや国民総背番号制をもじって名づけたものである。もちろん、マイ・カラダ・ナンバーは、実際のマイナンバーとは異なる。

基本的な発見手法は、まず、当該被害女性（私たちのシェアハウス入居女性や、調査をご依頼下さった一般女性）の性被害映像・写真を用意する。手元に残っていない場合は、新たにシェアハウス内の撮影設備や各自のカメラで撮影した性器・肛門や裸体全体の写真・映像を数点用意し、それをもとに同一人物（被害女性）が写った写真や映像をネット上やアダルト媒体から発見するという手法である。

日本では、性器の修正・無修正の概念があり、修正の有無が「わいせつ性」の有無に大きく影響しており、結果として性器の修正された（わいせつでない）映像や写真（つまり、顔と同じくらい個人差が大きく、被害女性特定への最大の鍵である性器が、曖昧に隠された状態のもの）が広く出回ってしまっている。そのため、私たちのプロジェクトも、性器の修正の有無により、下記のように検証段階を分けて取り組んでいる。

また、女性の各身体パーツについて、性被害女性の特定にどの程度活用できているかを表で示した。

今後とも、各女性の性被害の根源となった（加害者が所有している）マスター映像・写真を検索し、なるべく多くの性被害女性に提供・返却できるよう、努力していきたい。

## 2) 被害女性のホクロや顔、指紋が写っている場合

### ア) ホクロの位置（被害女性特定方法の基本）

被害女性の顔が映って（写って）いない性被害映像・写真において、ホクロの位置を調べることは、私たちが行っている被害女性特定の基本的な手法である。私たちの技術において、被害女性のホクロの一つ一つにはナンバーは付けられていないが、全身のナンバーの総称であるマイ・カラダ・ナンバーそのものが、被害女性のホクロの位置関係の一意性を表すナンバーであるといえる。

従って私たちは、被害女性の顔が分からない性被害映像・写真について、女性器照合や肛門照合に入る前に、まずホクロの位置関係を見ている。それでも被害女性を割り出せない場合に、女性器照合や肛門照合へと移る。

被害女性	高確率で	比較的容易	可能	可能性は	困難	極めて困
------	------	-------	----	------	----	------

の特定可能性	一致(外見上の個人差が大きい)			半分		難(外見上の個人差が小さい)
ホクロの状態	全裸(あらゆるホクロが見える状態)	被害部位(性器、肛門、乳頭、口腔)付近のホクロが見える状態	下着姿など、多くのホクロが見える状態	上半身・下半身のどちらかが着衣であるなど、およそ半分のホクロが見えない状態	全裸や半裸だが、加害者が大きく写り、被害女性の体やホクロが見えにくい状態	全身着衣(ただし、制服着用の場合は、高校・中学校の特定が可能のため、容易に)

#### イ) マイ顔ナンバー (顔番号制)、顔データベース、顔照合技術

性被害映像・写真に被害女性の顔が映って(写って)いる場合は、ほぼ既存の顔認証技術を転用することができ、実際にこれを応用して使用しているが、それに加え、私たち独自の顔照合技術をも導入している。

独自の顔照合技術が必要な理由は、性被害時の顔の表情は非常に独特であり、既存の顔認証技術が想定していない表情であるためである。私たちは、被害女性の表情を独自にデータベース化し、管理・分析・調査している。

#### 女現研・シェアハウスの顔照合技術の精度の現状

被害女性の特定可能性	高確率で一致(外見上の個人差が大きい)	比較的容易	可能	可能性は半分	困難	極めて困難(外見上の個人差が小さい)
顔の向き	正面	斜め正面、性的快楽の表情	横向き	性被害・苦悶の表情	斜め後ろ向き	後ろ向き、髪のみ

#### ウ) マイ指紋ナンバー (指紋番号制)、指紋データベース、指紋照合技術

性被害映像・写真に被害女性の指紋が映って（写って）いる場合にも、既存の指紋認証技術が転用できるわけだが、そのような映像・写真はほぼないと言ってよい状況にある。従って、効率性を考え、私たちも指紋照合による被害女性の特定技術の向上には、あまり力を入れていなかった。

ところが、後述の通り、指紋認証技術が肛門（のしわ）照合技術に比較的うまく転用できることが分かってからは、女性器照合と同じく力を入れるようになっている。

### 3) 被害女性の性器が無修正で、性器から検証可能な場合

#### ア) マイ女性器ナンバー（女性器背番号制）、女性器データベース、女性器照合技術

性被害映像・写真に被害女性の顔が写っていない場合、使用している身体部位は、被写体女性の無修正の性器が中心である。女性器データベースには、大陰唇、小陰唇、クリトリス、クリトリス包皮、尿道口、ヴァギナ前庭、ヴァギナ内壁などの色、形状、模様などが記録されており、それぞれ異なる光度や体位においても検出できるしくみになっている。

ここで性器の色や形状からの被写体女性の検出に用いている技術は、顔認証技術や指紋認証技術を転用した独自の女性器照合技術ないし女性身体照合技術である。

中には、女性器だけのアップ写真から、写っている向きの異なる複数の同一女性の性器写真を発見し、アップロードした教師らへの責任追及や写真の削除に成功したこともある。我々の技術の元となっている顔照合技術や指紋照合技術そのものが発展し、今では3D（立体）対応しているため、それを模倣している我々の技術も上がってきている。

#### イ) 日本独自の問題点

##### — 性器の修正による性被害の発見の遅れと被害女性の泣き寝入り —

しかしながら、当然課題は山積みである。「わいせつ」の定義の項でも解説したように、法理論上、性被害女性がご自身の無修正の性器写真を研究者に送信・提供しただけで（してもらっただけで）犯罪となる可能性があるのは、先進国では日本だけである。

そもそも、性器の無修正のみが事実上違法であるという、日本の風変わりな歪んだ観念が、性被害女性の被害写真・映像の送信をためらわせ、結果として泣き寝入りが拡大している。

この最大の悪影響を被っているのが、女子トイレでの盗撮被害である。ネット上に被害女性の性器が丁寧に修正されてばらまかれているがゆえに、唯一無二の性器の特徴が隠され、その結果、被害女性個人が特定できず、加害者の特定にも行き着かなかったり、そも

そも修正により「わいせつ物」でなくなっているために、加害者にお咎めがない、というトンチンカンなことが起きている。また、被害女性たち自身も、パートナーなどによって撮影された無修正の証拠写真を秘かに手元に持っていて、警察や私たちへ通告する機会を待っていたにもかかわらず、送信を諦めるという事態も発生している。

また、被写体が児童の場合は、無修正でなくとも、裸体や着衣の性的姿態の写真をやり取りしただけで違法である。さらに、法改正により、単純所持そのものが違法化された。「性的目的以外では所持可能」と解釈されているが、それは法学者や私たちのような女性保護運動家による期待を込めた勝手な解釈であって、調査研究のための所持が認められるかどうかの方針は国から示されていない。これにより、万全を期するため、性被害の証拠となる自分自身の裸体写真を泣く泣く廃棄・削除した被害女性（社会人女性から、女子高校生・中学生）まで現れている。

そのため、未だ多くの映像・写真の検証に、下記の通り、性器よりは個人差が小さい肛門照合や乳頭・乳輪・乳房照合を用いなければならない現状にある。

私たちもなるべく、無修正が違法とならない女性身体パーツ（つまりは、女性器以外の、顔、乳頭、乳輪、肛門、ホクロの位置など）や制服の特徴だけから被写体女性を特定できるよう努力しているが、顔が写っていないものについては、結局のところ個人差が極めて大きい性器周辺（とりわけ大陰唇・小陰唇）の皮膚や性器内部の襞（ヴァギナ内壁）の様相の情報が欲しい。強制的性交中の場合は大陰唇・小陰唇の形状、性器開口中の場合は内部の襞の情報が、極めて有効なものとなる。これらが入手できれば、被害女性の映った（写った）リベンジポルノの発見は、しばしば瞬時に終わる。肛門や乳頭・乳輪・乳房では、やはり似た女性がいくらでもおり、精度が劣る。

このまま時代が進めば、ネット社会であるにもかかわらず、性被害を受けた女性、とりわけ女子学生・生徒が、わざわざ我々のもとに来て手渡しで無修正写真・映像を提供しなければならなくなる。

被害女性 の特定可 能性	高確率で 一致（外見 上の個人 差が大きい）	比較的容易	可能	可能性は 半分	困難	極めて困 難（外見上 の個人差 が小さい）
女性器の 状態	無修正で 陰毛がない 場合（パイ パン）、 開口状態 （内部の	無修正、大 陰唇の形状	小陰唇の 形状、クリ トリス、ク リトリス 包皮	開口して いない有 毛性器	修正部分 が小さく、 大陰唇の 外側がか ろうじて 見える状	性器全体 が修正済



	襞・ヴァギナ内壁が見える状態)				態、性交中	
--	-----------------	--	--	--	-------	--

#### 4) 被害女性の性器が修正されており、性器からの検証が不可能な場合

##### ア) マイ肛門ナンバー (肛門背番号制)、肛門データベース、肛門照合技術

性被害映像・写真に被害女性の顔が写っておらず、性器も無修正で写っていない場合、次に被害女性特定に用いている身体部位は、肛門である。肛門データベースには、肛門、肛門周囲のしわ、会陰部（蟻の門渡り）などの色、形状、模様などが記録されており、それぞれ異なる光度や体位においても検出できるしくみになっている。

既存の指紋認証技術が最もうまく転用できる部位は、女性器よりも肛門であるといえる。女性器独特の色・模様・しわには適用できなかった（エラーが発生した）プログラムであっても、肛門の色・模様・しわには適用できた（エラーが発生しない）プログラムがかなりあった。

被害女性の特定可能性	高確率で一致（外見上の個人差が大きい）	比較的容易	可能	可能性は半分	困難	極めて困難（外見上の個人差が小さい）
肛門の状態	正面（周囲のしわが見える状態）	排泄直後の開口時	排泄時	斜め向き	やや脚を閉じた状態	脚を閉じた状態

##### イ) マイ乳頭・乳輪・乳房ナンバー (乳頭・乳輪・乳房背番号制) と乳頭・乳輪・乳房照合技術

性被害映像・写真に被害女性の顔や肛門が写っておらず、性器も無修正で写っていない場合、被害女性特定に用いている身体部位は、乳頭・乳輪・乳房である。これらは、一女性につき二つずつあるため、一女性に二つのナンバーが付けられ、データベース化されて

いる。

乳頭・乳輪・乳房データベースには、色、形状、模様なども記録されているが、他のデータベースにはないデータ、例えば「直立や仰臥位などの各体位における両乳頭間距離」なども記録されており、それぞれ異なる光度や体位においても検出できるしくみになっているほか、これが性行為等においてどのように揺れるかがシミュレーションされ、個々の女性間の差の検出に役立てられている。

現在の私たちの技術では、乳頭・乳輪・乳房を、個人差が大きく被害女性の特定がしやすい順に並べ替えると、乳輪・乳房・乳頭である。場合によっては、乳輪だけで被害女性の特定に至った例もあった。実際には、乳輪だけが写っていて乳頭が写っていない映像・写真はほぼ存在しないため、乳頭・乳輪・乳房とまとめて扱っている。

被害女性の特定可能性	高確率で一致（外見上の個人差が大きい）	比較的容易	可能	可能性は半分	困難	極めて困難（外見上の個人差が小さい）
乳頭・乳輪・乳房の状態	乳頭・乳輪の接写、乳輪の大きさや模様	乳頭・乳輪の両方が写った状態	乳頭・乳輪を横から写した状態	乳房全体（乳頭・乳輪を含む）をやや遠くから写した状態	乳房全体（乳頭・乳輪を含む）を遠くから写した状態	乳房の一部が写り、乳頭・乳輪は写っていない状態

#### ウ) その他のマイ・カラダ・ナンバー

（マイ・太もも・ナンバー、マイ・ヘソ・ナンバー、マイ・ヒップ・ナンバー等）

性被害映像・写真に被害女性の顔や肛門、乳頭・乳輪・乳房が写っておらず、性器も無修正で写っていない場合、被害女性特定に用いている身体部位には、太もも（大腿部）、臍、尻（臀部）などがある。それぞれに、規則に従ってナンバーが付けられ、データベース化されている。

被害女性の特定可能性	高確率で一致（外見上の個人差が大きい）	比較的容易	可能	可能性は半分	困難	極めて困難（外見上の個人差が小さい）
------------	---------------------	-------	----	--------	----	--------------------

	い)					
各パーツ の状態	全身や各 部位のホ ククの位 置	臍、手足・ 指・爪（指 紋は写って いない）	脇の下、肘 の内側、膝 の裏（しわ の一意性 が肝心）	太もも（大 腿部）、尻 （臀部）	肩、首	腹・背の一 部など個 人差・特徴 がない部 位のみが 写ってい る状態

### 3. 使用技術 — 開発と導入 —

#### 1) 性被害女性（主に女現研シェアハウスの入居女性）の検出技術 （アダルトサイトや女性器統計データなどの活用）

ある性被害女性の映像や写真がネットや紙媒体にあるかどうかを調べるには、当然、当該女性の性器等の写真を手元に用意し、データ化してプログラムに読み込ませなければならない。

この作業は、私たちのシェアハウスの入居女性に関しては、共有スペースでの同時撮影の機会を設けていることもあり、比較的スムーズに進んでいる。一方、調査をご依頼下さった外部の一般女性に関しては、「依頼はしたいが、被害映像・写真は提供したくない」という女性がかかりおり、心境は理解できるものの、調査という観点では悪影響と遅れをもたらしめている。

女性器のデータベース化の作業は、これまでは主に医療関係者や芸術家によって行われてきた。これには、過去の女性器事典や女性器写真集の手法も参考になる。よく知られたものには、『日本女性の外性器—統計学的形態論（日本性科学大系 1）』（笠井寛司、フリープレスサービス、1995）がある。同書は、発毛の程度と小陰唇の着色程度の関係などを調べ、マスターベーション、陰核肥大、小陰唇充血、陰裂離開、分泌物などの詳細を記録しており、私たちの女性器分類においても極めて参考になっている。このほか、実にさまざまな女性器事典や女性器写真集が刊行されてきたが、被害検出技術に用いるためには、とにかく女性器情報・女体情報をデータベース化するしかない。

私たちは、過去の女性器・女体の事典・写真集のほか、アダルトサイトの女性器・女体シリーズから医学的な女性器・女体統計データまで、あらゆる女性器・女体情報を活用し、被害女性検出技術の向上に努めている。

## 2) 性被害女性 (主に女現研シェアハウスの入居女性) の検出技術 (独自の検出技術)

私たちの用いている技術は、これまで書いたとおり、既存の技術に大いに頼ったものであるが、独自プログラムの部分も存在する。

既存の顔認証や指紋認証の技術は、金銭取引の安全性を目的としたもので、私たちの目的とは全く関係がない。そのため、先にも書いたが、その技術を女性器や肛門に応用するには、どうしても独自開発が必要である。最近、顔認証技術は女性器照合技術に、指紋認証技術は肛門 (のしわ) 照合技術に、それぞれ応用しやすいことが見えてきたため、技術の効率化も進んできている。

## 3) 児童ポルノ検出技術 1 (PhotoDNA の導入)

私たちは、保管センター内のアダルト媒体の調査に、マイクロソフトと米ダートマス大学のグループが共同開発した「PhotoDNA」技術を有料 (現在は無料) で導入し、日本女性の身体的特徴や日本の法律・条例・文化に合わせて応用しています。

### ●[児童ポルノ、不正プログラム、ハッキング…Microsoft が挑むサイバー犯罪との闘いとは](#)

#### Microsoft PhotoDNA

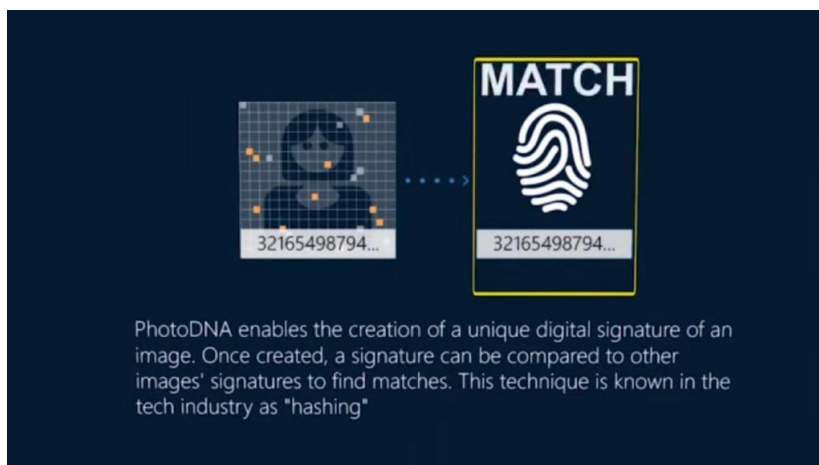
- 世界中の50以上の組織に無料でライセンス
- 業界標準 - Facebook, Twitter, Google が使用
- マイクロソフト製品の環境で実行
- マイクロソフトからNCMECへの通知により、2014年は58件の犯罪者を検挙

Outlook.com   bing   OneDrive



PhotoDNA は、欧米の警察・公安・諜報機関やフェイスブックなどの SNS において、おもに児童ポルノの検出に使われていますが、女現研・シェアハウスではその技術を、若年女子を中心としつつも、全ての入居女性やご依頼女性 (性被害女性) の画像に応用しています。例えば、被害女性の裸体の画像を所持する加害者がネット上にその画像をばらまいた場合、私たちのサイバーシステム室から (数日から一週間ほどは遅れることがあるものの) ほぼそれを発見することが可能です。

● [Microsoft's PhotoDNA: Leading the Fight Against Child Sexual Abuse Imagery](#)



#### 4) 児童ポルノ検出技術 2 (独自の検出技術)

ただし、PhotoDNA を日本で私たちがのように「18 歳以上を含む性被害女性の画像（性器画像、リベンジポルノなど）の検出システム」として導入・応用する場合、以下の問題が生じます。

- ◆ PhotoDNA がおもに導入されている欧米圏の「児童ポルノ」とは、ほとんどが 21 歳未満の男女のポルノを指し、21 歳以上の男女の裸体画像（日本発以外のものは全て性器が無修正）は合法である。日本以外のアジア圏も、ほとんどがこれに準じる。
- ◆ 日本の 18 歳～40 歳あたりの約半数の成人女性の性器・陰毛・肛門・尻・乳頭・乳輪・乳房の形状は、欧米の女子児童や女子生徒・学生のそれらの形状に近く、また、日本女性は比較的脚が短く、欧米の若年女性の体型をしているため、PhotoDNA のような海外の検出技術では、日本の合法的なヌードモデルや AV 女優の姿態まで児童ポルノとして検出されてしまう。
- ◆ ただし、そもそも日本では、無修正の性器画像は違法であり、PhotoDNA が合法と見なしたすべての無修正の性器画像を違法ポルノとして検出しなければならないが、18 歳以上の法律上の性器以外（陰毛・肛門・尻・乳頭・乳輪・乳房など）が写ったヌード・アダルト画像（合法画像）は検出しないようにしなければならない。
- ◆ 日本では、修正済みの性器画像（モザイクなどの状態）から、それが被害女性の性器であるかどうか（リベンジポルノであるかどうか）を判定しなければならないケースがほとんどであるため、無修正画像（性器の形状・色やホクロの位置など、唯一無

二の個人情報)から個人の特定が可能な欧米圏よりも、リベンジポルノへの対応が極めて遅れている。

- ◆ 日本では、女性の裸体のほうが男性の裸体よりも卑猥・猥雑であるとする強固な観念があり、とりわけ、男性の上半身の裸の露出やその画像(所持やアップロード)は合法だが、女性上半身の裸の露出は公然わいせつや迷惑防止条例違反、その画像はわいせつ物とされることがある。従って、皮肉にも、女性の裸体についてのみ検出の閾値を下げなければならない(ポルノ判定や公然わいせつ性の判定が出やすくしなければならない)。例えば、日本では、運動場で上半身裸で運動している男性は無罪であるが、女性は公然わいせつ罪や迷惑防止条例違反に問われる可能性があり、電車内で乳児に授乳する際にさえ注意しなければならない。

私たちは日々、これらの問題点を踏まえ、日本女性の身体的特徴や日本の法律・条例・文化に合わせて解決すべく、プログラムを修正し、検出システムを整備し、検出精度の向上に取り組んでいます。

●[Microsoft による PhotoDNA の解説ページ 1](#)

●[Microsoft による PhotoDNA の解説ページ 2](#)

#### 4. 今後の課題

私たちの被害女性検出技術は、以前にも増して飛躍的に向上しているが、それでも根本的に解決できない問題もはらんでいる。

何よりもまず、いくら性被害女性が写ったマスター映像・写真を回収しても、コピーされネット上にばらまかれたものは回収できない。もちろん、それでも、被害女性に対し、「あなたのこの映像・写真がこのサイトにある(で売られている)ことを発見した。通報の有無の判断はお任せする。通報の代行は受け付けている」という情報をこちらから提供するだけでも、女性たちの意識が変わってくる。女性たちご自身から、「通報をお願いします」というご依頼を頂いたり、「サイトを監視したり、自分の性生活に注意したりできるようになった」というご感想を頂くようになった。

ただし、私たちがネット上や性加害者(親、親族、兄弟姉妹、教師、知人、友人など)どうしのファイル共有サイト・ソフト上などで初めて発見する場合もあるが、最近は様相が違ってきている。友人(男子に限らず、女子学生・生徒も)がふざけて女子学生・生徒を撮影し、ばらまいたものや、女子学生・生徒が自らを撮影(自撮り)し、流出したものが増えている。また、母親が娘である学生・生徒を撮影してネット上にばらまき、それを発見した娘やご友人からのご依頼も多い。これらの家庭は、母子家庭(シングルマザー)

や貧困家庭とは限らず、ごく普通の母親と女子学生・生徒との関係においても起きている。

特に、児童ポルノについては、単純所持が違法となり、私たちのような一般国民によるボランティア活動での送受信もほぼ不可能となった。「性的目的以外では所持可能」と解釈されているが、それは法学者や私たちのような女性保護運動家による期待を込めた勝手な解釈であって、調査研究のための所持が認められるかどうかの方針は国から示されていない。私たちも、女性警察官との話し合いの結果、アダルトコンテンツと疑われる恐れのある一部の性被害女性の写真・映像を泣く泣く破棄した。

一方、私たちが使っているような技術を使えば、好みの特定女性の映像・写真ばかりを集めてしまえるという弊害も生じる。そもそも、顔認証や指紋認証など身体認証技術というものは、個人を特定するための技術なのであるから、それ自体は悪用しようと思えばいくらかでもできてしまう。それを応用した私たちの技術は、加害者（親、教師など）に絶対に渡ってはならない技術である。この点についても、幹部・一般女性スタッフをはじめ、性被害女性たちからも意見が出ており、私たちの女性身体照合活動そのものも、性被害女性に（操作端末をシェアハウスに多く設置するなどして）お任せできる場所はお任せできるようにしていきたい。